

215979

昭和25年10月18日

皇太后御遺教





魯土ノ近況第二十八号

十一年六月一日發

コーシントシエウロフ京五月十八日ヲ以テ魯京  
ヲ發シ途次「パリン」スビスマルクト暫時面語  
同二十二日、夜ヲ以テ龍動ニ歸着シ翌日ヨリ  
シテ魯政府ノ決議ヲ陳シ「ロル」トサリヌホリ氏  
ト屢次、談判續ヒテ今ニ至テ止マズ但其談判  
ハ目下何程迄推移リシヤ固ヨリ秘密ニシテ未  
ダ世上ニ漏レヌト雖モ兩政府ノ議漸ク一致  
ノ歩ニ進ミシト見ル日來各國新聞並ニ外交家  
ノ説ニモ保安ノ望ハ空カラズ復<sup>ミヤ</sup>近日伯林  
府ニ於テ公會<sup>コングレス</sup>ノ開クベキヲ疑フ者ナキマテ  
至レリ或ハ云フ公會ノ招状ハ既ニ整日而シテ  
日政府ハ先ツ其意ヲ各政府ニ敲キ其如何レモ



異議ナキ旨ヲ通知シタレハ此上ハ表向キノ招  
状ヲ出スノミ而シテ公會ハ六月十一日ヲ以テ  
関クベシト蓋シ其議席ニ於テハ免レ難キ各種  
ノ異論差起ル可シト雖トモ是轉細目ニ属スベ  
ク其大本ニ至テハ閑席前ニ悞議ニ至ルベキノ  
色アルヲ以テ閑席後意外ノ異論紛起シテ徒  
閑會スルノ患ハナカルベシ  
石ノ如ク時勢ノ多少安穩ニ向ヒシハ畢竟コト  
シトシユロロフガ英政府ノ現状ト奥意ノ在ル  
所ヲ面述セシヨリ魯廷ハ大ニ利害得失ノ辨ヲ  
熟考シ英政府ニ向テ數歩ヲ譲リシニ基ケル者  
ナリシユロロフ氏滞京中ヨリ今日ニ至ル迄京  
ルケヤコノ氏ノ病奪モアリテ自ラ事ヲ執ル能

一ノ五ノ一ノ

ハサルヲ以テ今次魯廷ノ決議ハ多ク魯帝ノ宸  
断ニ係ルト云フ  
今次魯廷ハ嚮キト英政府ガ回章ヲ以テカシス  
テフアノ和約ヲ駁セシ諸件ヲ悉ク兼諾スル  
ニハ至ラサル可シト雖氏新ホルガリヤ國ノ境  
界(サンステファ)ノ和約中ニ畧定セシ境界ヲ縮  
小シ且ツ其内政ノ編制ヨリ魯兵駐屯ノ期限並  
ニ兵數ニ至ル迄モ変ヤザルヲ得サルベク又セ  
ルアヒヤモンテ子グロノ新境界及ヒアルメニ  
ヤノ新境界モ多少變化ヲ加ヘサルヲ得サルベ  
ク又、バツサラビヤ一件モ澳政府ノ異議ニ由ラ  
宿望ノ如クナルベキヤ否ヲ保シ難ク又軍償金  
一件ニ就テモ穩ニ其望ノ如クナルベキヤ否ヲ





保シ難シ由此言之ハ、サンステファアノ和約ノ要  
領ハ大抵皆変化ヲ加ヘテ別々伯林公會和約ト  
ナルベキト恰モ巴里ノ和約ト一般ノ觀ヲ為ス  
ニ至ルモ未ダ知ルベカラズ(假令サンステファ  
ノ和約ノ名目ヲ存スルヲ得ルトアルニモセヨ)  
果シテ然ラバ、サンステファアノ和約ハ大ニ魯  
國ノ面目ヲ失ヘル者ト謂サルヲ得不何トナレ  
ハ此和約ハ假和約ノ名ヲ帶フルニモセヨ魯土  
西帝ノ批准ヲ經タル者ナレバナリ  
現下各國並ニ魯國ニ於テモ、サンステファアノ和  
約ノ其當ヲ得ザルヲ以テ、イクナケエフ氏ヲ誅  
謗スルモノ甚タ多シ然ト雖氏是レ豈ニ特リ、イ  
クナケエフノ過ヲ論ミテ、テシヤ、ゴル登ヤコ

氏モ亦失策ノ責ヲ免レ難シ蓋シ、イクナケエフ  
氏ガ、サンステファアノ和約ヲ結ビ、於キハ英國  
艦隊ノ未ダ、マルモテ海軍ヲ入ラザル前ニシテ當  
時魯廷ノ議ハ、慥カニ英政府(即チ、ビコンスフ  
トルド)奥意ノ在ル所ヲ洞觀セズシテ以為ラク  
彼レ遂ニカヲ以テ我々抗セサルベシト誤認ヤ  
シナリ(當ニ魯廷ノ論而已ナリ)英政府ヲ自由黨ノ  
テ然リトセリ)假現下、英政府ヲシテ自由黨ノ  
政府タラシメバ魯廷ノ政畧ハ全ク肯綮ニ中リ  
シ名ヲ得タルベキハ疑ナキノミナラズ、トルド  
デルビシヲシテ、ビコンスフエールドノ地位ニ  
アラシメバ魯廷多分目今ノ如ク數歩、英議  
ルヲ要セザルベシ何トナレバ目下英政府ガ次





第ニ勝ヲ制スルノ勢ニ立至リシハ畢竟印度ノ  
兵ヲマルタニ呼寄セ真ニ兵力ヲ以テ其要求ス  
ル所ヲ達セント決シタルニ坐スレバナリ而シテ  
「ロルドテル」辭職セシハ全ク此ノ出兵支度  
ガ不測ノ患ヲ醸スバシト畏レタル由レハナ  
リ「バロンゲヨ」ニ氏曾テ予ニ語テ「ロルドテル  
」ハ穎利ノ人物ナレドモ果斷ノ氣畧乏シ  
キヲ以テ其所見ハ英民ニ重ゼテ「ル」ニ足ラザ  
ルヲ惜ムノミト云ヘリ  
英政府ガ從前ヨリノ請求タル夫ノ「サンステア  
」ノ和約ヲ悉ク公會ノ高議ニ附スバシトノ件  
ハ一説ニ「ル」魯政府ニ在テ其請求ニ從ス  
トモ云々又一説ニ公會ノ日議長「マリン」氏

「ル」氏ヨリ石和約ヲ悉ク討論スルヲ許ス旨ヲ  
口述スバシト日政府ガ保証トシテ「ル」氏ヨリ此件ハ  
兩政府共ニ其勸告ニ任セタリ云々未説外方  
事情ニ近キニ似タリ  
伯林ノ公會ニハ「パリ」ニスズマルク之ガ議長  
トナリ各政府ヨリハ外務卿ヲ派遣セル筈ナレ  
ドモ英政府ハ「ロルド」サリスボリ氏ヲ遣スバ  
キヤ或ハ「ロルド」テイオン「氏」駐英大使ヲ派スバ  
キヤ未ダ詳カナラズ又「ゴル」チヤコフ「氏」ハ現ニ  
病奪ニアルヲ以テ公會ニ與ケルヲ得ズキヤ否  
覺束ナシモシ「ゲル」チヤコフ「氏」親往スルハ不  
ナケエ「ル」氏ハ代任トナルヲ得サルベシトノ説  
多シ是レ同氏ハ魯廷ニテ甚ダ不評判ナレバ



ナリ、バロンゲヨミニ氏ハ却テ、ゴルチヤコフノ  
代任ニ命セラレ、モ知ルベカラズ、此公會コソ  
近時稀ナル一大會議ニシテ其地ハ則チ政界世  
界ノ中心タル伯林府、而シテ其議員ハ則チ現下  
歐洲中最有名ノ外交家ノミナリ、  
備公會中魯英ノ兵相共ニ土京ノ近辺ヨリ退ク  
ベキノ一案ハ頃日更ニ寒々聞ユルナシ、或ハ云  
フ此件モ亦現下魯英兩政府ノ談判中ナリト、或  
ハ然ルモ知ルベカラズト雖、氏予カ村度ニ扱ハ  
二國ノ兵ハ互ニ土京咫尺ノ地ニ相面スト、雖、  
一ハ海一ハ陸ナルノミナラズ、現ニ已ニ相持ス  
ルコト殆ンド四月ニ及ベリト雖、トモ何等ノ  
風波モ起ラザリ、  
但シ相敵視スル状ハ則チ

有リ、今次一大緊要ノ際、臨テ不虞ノ難起ルベ  
シトモ思ハレズ、況ヤ魯英二國兩ツナガラ公會  
ニ於テ其言論ヲ護スル者ハ全ク其背後ニアル  
兵力ノ強弱ニヨルヲ以テ魯英既ニ前日ヨリシ  
テ更ニ其兵ヲサシステ、フアノノ本營ヨリ四、  
口ノトトル土京ノ方ヘ進メ、以テ方一公會ノ破  
談ニ至ル時ニ備ヘタレハ、英モ亦一旦占拠セシ  
場所ヲ変ズルヲ好マザルベケレハナリ、故ニ公  
會既ニ開クニ至ル、兵ハ相退クニ至ラ  
サルベシト思ハル、  
伯林府公會ノ件ニ付、是迄ニ説キ、一ハ云ク魯  
英二政府、既ニ其大本ニ於テ一致シ、又澳政府  
ノ要求モ業已、魯政府ノ全ク知了セ、  
所ナル





ヲ以テ一旦公會ヲ関クニ至ラバ格別手間取レ  
カシテ無事ニ局ヲ了スベシト一ハ云ク魯英二  
政府ハ現ニ細目ニ於テ其議相合サルニヨリ全  
ク之ヲ公會ニ問ハント決セシヲ以テ公會ハ餘  
程時日ヲ費スベシト然レドモ二説共ニ保安ノ  
望アルニ至テハ則一ナリ  
本日、魯國各新聞ニ昨日「グロト」英國新聞ノ名  
ニ記セシ新案十ヶ条ヲ電報ニテ載セタリ其事  
甚ダ信ヲ措クニ足ラズト雖ドモ録シテ以テ異  
聞ニ供ス其報ニ曰ク魯英二政府ハ左ノ條々ニ  
一致シ而シテ之ヲ公會ニ問フベシ第一、バルカ  
シ嶺ヲ取トシテ「ホルガリ」又曰二個ニ分ケ嶺北  
ハ新侯國ト為シ嶺南ハ但シ「正」ガ京ニ海運達ス

此ヲ得テ基督民ヨリ鎮堂ガナルヲ撰キ州政ハ英國ノ  
屬地ニ施行スル者ニ倣スベク而シテ其州名  
公會ニ於テ定ムベキ事、第二土耳其兵ハ嶺南州  
ニ駐屯スルヲ得サル事、第三「バツ」サラヒヤ割與  
ノ件ニ付英政府ハ單ニ遺憾ト看倣スノミナリ  
此件ニ抗抵セザル事、第四英政府ハ「ガニ」エホ  
河ニ関スル「イン」テルナシヨナルヲ所置ヲ討論  
スルノ権理ヲ保有スル事、第五英政府ハ魯ガ「ハ  
ツム」港ヲ占領スルヲ妨ゲスト虽ドモ魯ハ亞細  
亞地方ニ於テ僕之ヨリ多ク其領地ヲ擴メザル  
ベキ旨ヲ誓約スベキ事、第六魯政府ハ英ノ請求  
ニヨリ「ハヤ」ゼットヲ玉返スベシ而シテ土ハ  
其代トシテ「ハル」シヤニ接壤セル「ヨツ」ル州ヲ魯





譲ルベキ事此条全ク信シガ第七魯ハ軍償金  
ノ代物トシテ土領ヲ譲受クベカラサル事又英  
國ハ土ノ債主タルヲ以テ英ヨリ土ニ要スル會  
計事務ニ對シ魯ハ一切喙ヲ容レサルベキ事又  
軍償金消却法ハ公會ニ於テ取極ムベキ事第八  
公會ニ於テエピソードテツカリし及ニ其他ギ  
リシヤ民ノ住スル土領諸州ノ改革案ヲ取極ム  
ヘキ事第九タルダ子ルホスフオリユス海峡通  
航ハ是迄ノ通タルベキ事第十英政府ハ公會ニ  
於テホルガリヤ政務編制ヲ政州各政府ニテ負  
擔スベキノ案ヲ立ツベシ將又魯兵ガホルガリ  
ヤニ駐屯スルコト、魯兵ガロトマニヤ領ヲ通  
過スルノ二件ニ付討論スベキ事

雜報

魯ノ都督トットレトベシヨリ頻ニ要求セレ  
エムヲ「ホル」及ビ「ハツ」港三寨明渡レノ事ニ  
對シ土政府ハ未ダ決答ヲ為サズレテ三寨共ニ  
依然土兵ノ手ニアリ只「レ」エムヲ「カル」ナノ二寨  
ニ屯駐セル土兵ノ一部ヲ土京ニ呼戻セル而已  
ハツ「港」並ニ其附近ノ住民ハ魯ノ故國ニ入ル  
ヲ肯シセサル旨ヲ頻ニ懇訴シモレ其願行ハレ  
ガレバカヲ以テ之ヲ拒ハムニ決セレ色アリ  
澳政府ハ土政府ノ承諾ヲ受ケ「ア」ダ「カ」ン「マ」  
「ホ」セ「リ」「ア」ダ「カ」ン「ハ」「サ」ン「ス」テ「ア」  
「ア」ノ和約中ニ其  
寨ヲ破毀スベレト掲ケレ者ニ「テ」  
「ダ」ニ「エ」  
「ー」  
「ブ」  
「河」



中ニアル一島ナリ此島ハ澳領「オルソロ」ニ甚ク  
接近セリ元來千七百三十九年迄ハ澳領ニシテ  
「オルソロ」島ト名付アリシ者タリシガ土領ニ變  
ゼシ以來今名ニ替リレナリ一昨年「セルアヒヤ」  
ト「トルゴ」ノ戰爭中「セルアヒヤ」ハ此島ヲ襲撃セ  
ン「ヲ」澳政府ニ乞ヒレニ澳政府ハ之許サバリ  
シ今次澳兵新タニ之ニ拠リシヲ以テ駐澳「セル  
アヒヤ」僑交吏ハ政府ノ命ヲ以テ其所以ヲ問ヒ  
シニ澳政府ハ土政府ノ請ニエツテ拠リレナリ  
ト答ヘシト云フ澳兵ガ此島ニ拠リレハ「サン  
テ」フ「ア」ノ條約中ニ記スル款ヲ無ニスル所為  
ニ直シトノ説アリト雖ドモ但レ條約中ニハ此  
ト明屬スルト見込タルベシト推察スル者多シ

「ア」ジ「ヤ」ン「ス」リ「エ」ス「新」聞  
新聞政府ノ半公ニハ同伴

ヲ以テ各政府ノ同意セシ所ニ係ルト云ヘリ、サ  
レバ此説ヲ以テ慥ナリ認メザルベク「ラス」何ニ  
モセヨ澳兵ガ此島ニ假拠シ或ハ「タ」ラ「ン」ス「レ」エ  
ルヲニ「ヤ」ヘ兵ヲ出シ置カ如キハ皆不虞ニ備フ  
ルノ意ニシテ夫ノ「ホ」ス「ニ」ヤ「ハ」ル「セ」ゴ「フ」ヒ「ナ」ヲ  
假拠スルノ目的モ今ニ猶廢セズ魯兵ヲ以テ現  
ニ「ロ」マ「ニ」ヤ「國」ノ各所ニ假拠スルノミナラス  
澳境ヘモ兵ヲ出シ置ケリ  
土京ニ住ム外國人ニシテ土國ノ公債證券ヲ所  
持スル者一同ヨリシテ駐土外國大使ノ筆頭ニ  
一書ヲ奉レテ假令土領ハ何様ニ變換ストモ債  
主等ハ畢竟土國ハ歐洲大政府ノ監護アルヲ頼





ミテ金ヲ出セシナルニヨリ彼等ノ利益ヲ保護  
セラレシテラ懇請シ其願書中ニ國債ハ其土地  
ニ隨テ共ニ移ルト一國ノ公債ハ其領主ヲ変スル  
アルヲ証トシテ古今條約十三種ヲ臚列セリ是  
レ債主等ハホルガリヤノ歳入ヲ以テ舊債ヲ償  
ハシメントノ意ニ基ケルナリホルガリヤノ歳  
入ハ土領全國歳入五分ノ一ヲ為スト云フ過日  
馬耳塞府通商社ヨリモ同様ノ請求ヲ仙國外務  
卿へ出セリ而シテウアゲンゲトシ氏ハ公會ノ  
席ニ於テ同伴ヲ叢論センテ約セリ斯レハ英  
民ハ尚更ノ一タルベキヲ以テ前文魯國軍償金  
取上ケ方ノ件ニ付テモ公會ノ議席ニ於テ各種  
ノ議論紛生スベレ

過日(五月二十日)玉京ノ騷動一件ハ教法書生ニ

シテ急進黨ノ一人タルアリシユアヒナル者ノ  
陰謀ニ係レリ此者現下玉京ニ増集セル難民中  
ニ就キ強壯ナル者數百人ヲ撰ヒロドロパ回教  
民ノ應援兵ヲ編制スト聲言シ之ニ武器ヲ與ヘ  
一日此愚民ヲ欺キテ云ク出陣前須ラクテエテ  
ガシ宮ニ赴キ帝ニ暇乞ハスベレトテエガシ宮  
則テ廢帝ニムラツトノ住スル所ナリ愚民等ハ  
今帝ト廢帝トノ別ヲ知テ不漫ニアリシユアヒ  
ニ從テ同宮ノ門ニ入ル守兵其異因アルヲ察シ  
拒テ入レス於是テアリシユアヒハ部下ノ募兵  
ニ令ノ發砲セシメ勢ニ乘リ廢帝ノ室ニ入リ佐  
ニ復シテヲ勸ム廢帝惶懼不知所為只一命ヲ助



ケ吳ヨト哀號ス時ニ玉ノ正兵等急ヲ聞テケセ  
ラガン宮ヲ圍ムアリシユアヒハ奮闘ノ之ニ死  
ス其兵モ亦死傷六十人ニ及ヘリ須臾ニシテ全  
ク鎮靜セリ然レ氏現下連類ノ徒探索專ニ盛ナ  
リアリシユアヒノ意ハ廢帝トシテツト帝位ニ  
復レ自ラ大臣トナリテ政權ヲ握ラント欲スル  
近ノ暴舉ニシテ全ク狂人ノ行爲ニ異ナラズ彼  
ハ前年故廢帝アバツルアゲスヲ廢セントレテ  
陰謀發覺シ玉國ヲ放逐セラレ英佛等國々漫遊  
セシガ後許サレテ故國ニ帰リ書院ノ長トナリ  
居リンガ遂ニ今次ノ如キ在暴ノ圖ヲ企テレナ  
リト云フアリシユアヒノ騷動後未タ幾クモナ  
クノ玉國太政官中ヨリ大起リ諸省大抵皆燒失

セリ、此外玉廷ハ再ビ太政大臣ノ官ヲ復シ諸省  
ノ郷頻リニ交換アリテ物情穩ナラズ  
印度兵ハ大抵皆マルタ島ニ着シ或ハ其途中ニ  
アリ英政府ガ議院ニ問ハズノ独断ヲ以テ印度  
兵ヲ呼寄セタル所業ノ英國憲法ニ脊ケルトテ  
自由黨ガ政府ヲ詰問スルノ議ハ日ニ上下院ニ  
遍シ然レ氏此件タル現下明了ニ答フベキノ時  
ニアラズトテ政府ハ之ヲ拒ミ亦自由黨魁ノハ  
ルケンゲトシ氏モ同伴ヲ議スルハ異日ニ於テ  
スバキヲ以テセリ抑モ同伴ハ既往事ニ屬シ自  
今歐洲一般ノ關係ナキノミナラズ彼等ガラツ  
ストレフアヤセツト等輩ノ抗議ハ全ク黨派ノ  
目度ニ牽拘セテレ真成愛國ノ情ニ背ケルヲ以



テ録スルニ足ラス只今次印度兵出張ニ付海陸  
軍省非常ノ増額ハ大ニ将来英國トノ関係ニ於  
テ参考ニ供スベキモノアルヲ以テ原文ノ傍ヲ  
左ニ録ス(但シ千八百七十八年五月二十四日出  
版ノ「タイムズ」ヨリ切抜ス)

明治十一年六月一日

榎本武揚

寺島外務卿殿

近況日報

五月十九日

羅納十七日「ボリチン」コルレス「ボリチン」新聞

ハ君士坦丁堡ヨリノ報「セリトル」トットレ

ベシハ「ガリポリヤ」ノ諸城寨ニアル土兵ヲ引拂

ハシムル為メ最モ短キ期限ヲ定メ若シ土政府

ガ之ニ同意セサルトキハ力ヲ以テ魯兵ヲ乗入

ラシムルノ用意ヲ為ストノ議アリ依之昨日ハ

土帝ヲ議長トシテ諸卿ノ會議ヲ開キタレドモ

何ノ決議ニ至ラザリシ一萬五千ノ兵ハ「カラク

リ」チヨリ「ク」チエ「ク」チエ「ク」チエ「ク」チエ

「サ」リ「ワ」リ「ヤ」ヨリ「ハ」カ「リ」ク「ラ」テ「ハ」兵ヲ送り其他

諸所魯兵ノ動ク有様ヲ以テ見ルニ退々土京ハ



三塚トハ、シエムラ  
ルコ、ハムム、ヲ云フ

進近スルノ色アリ、魯ノ大使ハ土政府ガ英艦隊  
ヲ、マルモテ海ヨリ引カシムルノ一付手切掛  
合ヲ送レリトノ説アリ  
土京十七日、魯兵ハ、サンステアノ近辺ニアル  
土兵ノ境線ヨリ二、キロメートルノ距離ニ、臺場  
砲四十門ヲ備ヘタリ、サンステアノ三ノ本營  
而已、残り魯兵ハ同所ノ近邊ニ悉ク散布セリ、或  
ル魯兵ハ追々進ミ、ガエクデレノ高地迄達シタ  
リ  
龍動十七日、タイムス新聞ハ、ハラヨリノ報ニ魯  
兵ハ土京ノ方ヘ四、キロメートル程進近セリト  
雖ドモ交際上ニハ別段變形ナレ只人民ニシク  
動搖セシメ、同十八日、デイリーニエー、新聞

ハ土京十七日ノ報ニ、ゼ子ヲルトツトレベシハ  
土政府ハ三寨ヲ明渡ス、ト云テ、クニ、土兵  
ヲ引退カシムルト並ニ、ガエクデレハ魯兵ノ線  
ヲ入ルヤキトヲ要求セリ、依之、昨今土帝ヲ議長  
トシ、諸卿諸將ノ會議ヲ開テ之ヲ議ス多分ハ魯  
ノ要求ヲ拒ム、至ルバシ、  
同二十日、  
土京十八日、プリンストロバノ、今日土帝ニ謁  
見シテ國書ヲ出セリ、而後土政府ハ公ケノ尋問  
ヲ為セリ、土京近辺ニアル魯兵ノ運動ハ未タ止  
マサレドモ境線迄、キ来ルハ先ツ止メ、英  
艦隊ハ来ル二十日、以テ、ハ先ツ止メ、英  
山ノ一揆勢ヲ鎮定スル為メ、派出セシ役人等ハ





其效アルヤ否未タ結局分ラス  
經有十九日、魯人ハ汽船ヲ買入ル、コトニ付當  
府ニ於テ頻リニ談判セリ

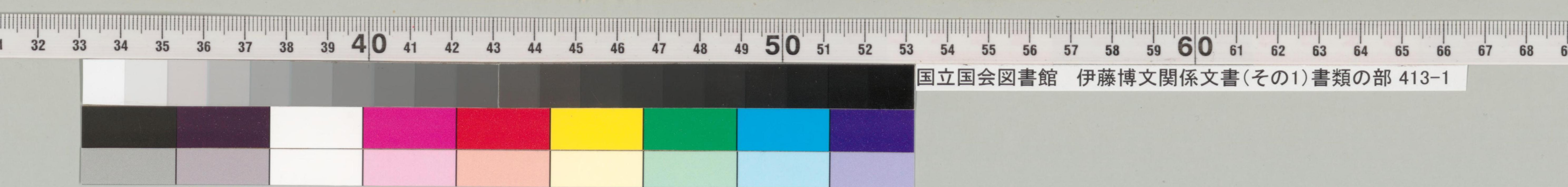
同廿一日

土京二十日、土國陸軍卿ハ、カンスラフアノニ赴  
テ子ラルトットレバント談判シ而後、カンス  
テノアアノ近辺ニアル土兵ノ陣ヲ巡覽セリ、魯  
兵ノ運動ヨリシテ世間ノ動搖ハ無事ニ静マル  
ベシ

龍動二十日、タイムス新聞ハ、バテ十九日ノ報ニ  
今日當所ニ於テハ平和ニ事ノ沼マルベキ望ニ  
絶スタリトテ説アリテ世間甚タ穩ニテ土京  
ニ於テ此日澳二國ハ公使館ニ於テモ此説ニヨリ

テ大ニ疑ヲ起セリ、パリンスロバノフロストフ  
スキハ土帝ニ謁見シ甚タ丁寧ニ待テラレ  
タリ、土京ヨリ、レイテルアゲントノ報ニ、パリ  
スロストフスキガ今日當府住居ノ魯人ニ會ヤ  
シ時ノ口上ニ目今ノ面倒ナル事情ニ多分穩  
ニ沼マルベシトテ係未タ結局ニハ至ラサルヲ以  
テ心ヲ忽セニスルヲ得ベクテト

但林二十日、ゴロントニエロロアハ今朝當府ニ  
着シ魯ノ大使館ニ於テ日國外務大輔、ヒエロ  
ト會話シ午前十一時ニ日帝ニ謁見シ午後四時  
前ニハ同府ヲ出立シ、パリンスロバノニ於テ面  
會ノ為メ、アリドリクスルエヘ赴クベシ  
ホルトサハド十九日運送船「デア」並ニ「アトリー





「カイ」軍小即ケテ  
「ル」戦ラズ

此報信シ易カラス

号ハ昨夜印度兵ヲ乗セテ「マルタ」へ出帆セリ  
同廿二日  
龍動二十日下院ニ於テ「ノルスコツト」氏曰ク預  
備兵ヲ募ル為メニ英政府ニ既ニ十四万「ホン」ト  
ス「テルリ」ングヲ費セリ「カ」ト「パ」ス軍ニハ英國ト  
於テ一月五千「ホン」ド賊地ニ「テ」ハ二萬「ホン」ドソ  
、ヲ費用ス  
維納二十日「ホ」リ「チ」シ「コ」ル「レ」ス「ホ」シ「テ」ン「ソ」新聞  
ヘ「ア」ド「リ」マ「ノ」ツ「ホ」ル「ヨ」リ「ノ」報「キ」ト「ト」山  
於テ魯兵ハ一揆勢ト戦セ二百人死傷セリト云  
「フ」バ「フ」レ「ス」ト「ヨ」リ「ノ」報「ニ」「ア」リ「ン」ス「カ」ル「ノ」命  
「ヨ」ツ「テ」「ロ」ト「マ」「シ」ヤ「兵」カ「ル」ト「ト」移セ  
リ第一「テ」「フ」シ「ヨ」ン「ハ」「チ」ル「ゴ」ウ「イ」シ「テ」第「二」テ

「ア」ヒ「シ」ヨ「ン」ハ「ポ」テ「シ」ケ「第」三「ケ」ヒ「シ」ヨ「ン」ハ「カ」ラ  
ケ「ナ」シ「第」四「ケ」ヒ「シ」ヨ「ン」ハ「ク」ラ「ヨ」コ「ト」ト「ト」  
「ホ」ルト「サ」イ「ド」二十日印度兵ヲ載セタル運送船  
「コ」カ「ユ」テ「ホ」ス「ホ」タル「カ」ナ「ラ」バ「ロ」ン「コ」ロ「ン」サ「イ」  
「ア」ン「ブ」レ「ガ」ル「号」既「ニ」「ゴ」ル「タ」嶋「へ」出帆セリ  
同二十三日  
龍動二十二日「ス」タ「ン」ダ「ル」ト「新」聞「ニ」云「ク」會「議」ハ  
多分六月初旬ニ開クベシ、土京ニ於テ騒擾甚ク  
シキニヨリ「イ」ス「ト」灣「ニ」アル英艦隊ハ「ア」リ「ン」  
ス嶋へ轉泊スル様子ナリ  
維納二十二日伯林ヨリ「ノ」報「ニ」日政府ハ龍動  
於テ頻リニ仲裁ヲ勉強シ日國太子夫婦ニ龍動  
ニ於テ治安ニ注意セリ、日政府ハ「ア」リ「ン」ス「レ」イ





スレヲ以テ土政府ニ勸告シテ云ク三台場ノ土兵  
ヲ引揚クルハ甚ク必要ナリト大ニ  
巴里二十一日府下在勤魯領事クマニハ魯京へ  
呼戻サレタリレイテルヤゲントノ報ニクセ  
ハ會議ニ於テグリーンズゴルチヤコフノ書記官  
カ或ハ副使ニ任セララルベシ

同廿四日

龍動二十三日「ゴロント」シエロロフハ今日当府  
へ着シ英政府ハ各郷ノ會議ヲ開ケリ同廿三日  
「ゴロント」シエロロフハ今日「マルキ」ス  
ホリト會話ヤリホストンヨリノ報ニ魯ノ理事  
官ハ「ホストン」ノ製鉄所ニ於テ大砲訛報ヲ談判  
ヲ開ケリ

土京二十三日英艦隊ハ再タ「イカ」ド灣へ歸  
リ投錨セリ昨夜太政官ヨリ大起リ諸將ヲシト  
残ラズ焼滅セリ保シ書類ハ全ク失セズ  
雜納二十二日「ホリ」チシエルレスホンテシ  
聞ヘ「ア」テイ「ン」ヨリノ報ニ「ク」リ「ト」馬ニ於テ土  
兵ハ諸所ヨリ同時ニ起リテ一揆ヲ攻撃シ一  
揆勢ヲ固メ數ヶ所ヲ乗取レリ伯林並ニ龍動ヨ  
リノ報ニ事件ハ日々平穩ニ赴キ來リ會議ハ六  
月中旬ニ慥ク開クバシ  
同廿五日  
龍動二十三日「ゴロント」シエロロフハ今日外務  
省ニ於テ「マルキ」トスサリスホリト面會シ魯國  
ノ立案ヲ述バタリ其趣意ハ英政府ヨリ返答ヲ





為ス迄ノ間ハ秘密ニスルヲ以テ未タ分ラズ同  
二十四日「モーニング」ホスト新聞ニ云ク「コトシ  
トシ」モ「ロ」ヲヨリ英政府ニ述ヘタル口上ハ魯  
政府ハ事ヲ平和ニセン為メ英ノ立案ニ多クハ  
同意スベシト虽氏「サン」ス「ア」ノ條約ヲ破ル事  
ニハ同意スルヲ得ズ保シ詠條約ヲ悉ク會議  
出ノ決ヲ取ル「ハ」不同意セザルベシト同氏  
ノ口上ニ魯帝ハ「ヤ」子「ラ」ルト「ツ」ト「レ」ベシ「ハ」命  
シテ曰ク「土京」ハ進入スルノ舉動等ヲ決シテ為  
スベカ「ラ」ズト英魯ノ間平和ニ歸スベキノ談判  
不日ニ起ルベシ、土京ヨリ「レ」イ「テ」ル「ア」ゲント「ノ」  
報ニ太政官火事ノ起リハ未タ明ク「カ」カ「レ」  
ガ「レ」氏多令自火難「バ」シ魯兵ハ少シ「ツ」テ前進

スト虽氏線境ヲ越エルト「ナ」シ「マ」ル「タ」嶋ヨリハ  
報ニ運送船「ガ」ア「並」ニ「ハ」ト「号」ハ「ホ」ン「少」  
兵ヲ載セテ当地ヘ着セリ

同廿六日

龍動二十五日「レ」イ「テ」ル「ア」ゲント「ノ」報ニ昨日諸  
卿ノ會議ヲ開キ三時間「コ」ト「シ」コ「ロ」ヲ「ノ」  
返答ヲ議セリ「ス」タ「シ」タル「ト」新聞ニ云ク事件ハ  
必「ラ」ズ「穂」カニ「沼」マルベシ、魯帝ハ「ヤ」ツ「サ」ラ「ズ」ヤ  
一件ニ付少シモ譲ル「ハ」無ケレドモ「ホ」ル「ガ」リ  
ヤ境ノ「ト」ニ付テハ大ニ勘弁スベシ償金ハ事ニ  
寄リ元數ノ半額迄減スル「ト」アルモ知ルベカラ  
ズ

羅約二十五日「ア」レス新聞ニ云ク「コ」ト「シ」ユ



コトヲ、英政府へ述へタル儀、未タ当府へハ  
知渡ラズト雖、府下交際家ノ説ニヨレバ、事件  
ハ甚タ平穩ニ赴キ會議ハ不日開クベシ

同廿七日

龍動二十五日諸郷ノ會議ニ於テ昨一昨ノ兩日  
ハ「コロシト」シエワロフノ立案ヲ議シタレ、未  
タ何ノ返答ヲ為ス「ニ」モ決セズ若シ英政府ノ  
返答決シタラバ日今ノ形勢何レハカ方向クベ  
シ「レ」イテル「ア」ゲン「ト」ノ報ニ英國海軍省ハ「チ」ヤ  
タムノ造船所へ詔へタル申鉄艦ハ其製造ヲ甚  
タ急「ミ」及ハカト言入レタリ  
羅納二十六日澳兵ハ土政府ノ許シヲ得テ昨日  
「ア」ダカ「レ」へ進メリ澳兵「ダ」ニエ「ト」グ河ヲ守ル為

「ア」ダカ「レ」ハ「ガ」ニ「エ」フ  
「コ」ロ「シ」ト「ル」一「馬」ナリ

ノ永ク「ア」ダカ「レ」ニ止マルベシ同所ニ在リシ土  
兵ハ大砲ヲ澳兵ニ授渡シ「ホ」ス「ニ」ヤ「レ」ハ「マ」シ  
澳兵ハ「ラ」ル「ソ」コ「ロ」ヘ行ク鉄道ノ一部ニテ是「レ」迄中  
立地タリシ所へモ進入レリ

同廿八日

龍動二十七日「タイムズ」新聞ハ羅納二十六日ノ  
報ニ「サン」ステ「ア」ノ「レ」ノ條約ヲ悉テ會議スル「ト」  
ニ付テ「ノ」難問ハ絶ハ「タ」リ、會議ヲ開ク「ト」ノ談判  
ハ「乙」ニ始マリ六月十一日ニ初會ヲ為スベキ「ノ」  
立案既ニ整ヒ澳並ニ佛政府ハ既ニ同意セリ「タ」  
「イ」ム「ス」新聞ニ拠レバ右ノ説ハ慥カナル者ナル  
ベシ會議ハ招集、布告ハ英魯ニ談判今少シ進  
ミタル上ニ「テ」アルベシ





維納二十七日伯林ニ於テ来ル六月十一日會議  
ヲ開クベキ旨ハ既ニ各政府へ通達アリ各政府  
ハ直ニ之ニ同意セリヨリセントシエワロフハマ  
ルキースサリスホリニ魯政府ガサンステファ  
ノ條約ヲ統テ會議ニ持出ストニ同意セシ旨  
ヲ内告セリ日政府ハ會議ノ招キ状ニ巴里並ニ  
「サンステファ」ノ條約ノ數ヶ条ヲ統テ吟味スル  
為ノ各國ノ全權使ヲ招クト書スバシ

同廿九日

維納二十七日「ホリチシコルレス」ホンデンツ新  
聞ノ説ニ拠ハ會議ハ必テ不開ク者ト看做ノ可  
ナリ會議ハ来ル六月十一日伯林ニ於テ開クベ  
シ「コルレス」ホンデンツ「ユロ」ノ報ニ拠レバ

澳兵「アブカ」ヲ占拠シテ「實説」ナリ  
伯林二十七日「工等社會」ニ於テ「ハ」ハ「ロ」  
トノ報知ニ係レル「澳政府」ハ未ク「伯林會議」ヲ招  
キニ同意ヲ言出サズトノ事ヲ以テ「虚」ナリトヤ  
リ會議ヲ開クトニ就テハ「第一番」ニ「澳政府」ハ内  
通シ而シ「澳政府」ハ「兼諾」旨ヲ答ヘタリ  
龍動二十八日「下院」ニ於テ「印度兵入費増額」ノ議  
ニ付「略議」セシガ可ヲ唱ヘシ者二百十七人否ヲ  
唱ヘシ者百十人ナルヲ以テ「石増額」ノ件ニ付「專  
ラ」之ヲ議スルトニ決セリ又曰ク「印度兵入費増  
額」ノ件ハ「別ニ」声ヲ集ムベシテ「下院」ハ「兼諾」ヲ得  
タリ「モ」ニ「シ」グ「ホ」スト並ニ「テ」イ「リ」テ「レ」ガ  
「新聞」ニ曰ク「魯英二國而已」ニ「関」スル「諸種」ノ「疑





尚ハ兩政府共ニ洩レテ一致セリ、ベツカラビ  
ヤ並ニ軍償金ノ條ハ将来ノ商議ニ譲レリ英政  
府ヨリ派遣スベキ伯林會議ノ全權使ニハ、マ  
キトスホリカ或ハ、ホルドライオンス撰ハルベ  
シト  
同三十日  
龍動二十九日、デイリニユース新聞ニ曰ク「ロ  
ンドントシユロロフ」ノ同意ニヨリテ「ホルガリヤ  
ノ新境ハ初メ條約書ニ記載セシヨリモ半分餘  
減少シ償金高モ條約書ニ載セタル數ヨリモ減  
セル若トナレリ」  
維納二十八日、ハインツ氏ハ「ゴーントア」  
ニ屬シテ會議ニ出張スベシ、ホリケシコルレ

スホシデシツ新聞ニ「土京ヨリノ報ニ土政府ハ  
英仏ノ大使ニ會議ニ於テ讀廣ムベキ「通」ノ書  
ヲ渡セリ其一ハ「ヤンステ」フアノ條約ヲ取結  
フ前ノ應接向並ニ條約取結ヲ任セテ「タル土  
國官員等ノ難苦ヲ輕タル」等ヲ記シ他ノ一書  
ニハ「土耳其帝國ニ施行スベキ改革案ヲ記セリ  
ト  
土京二十八日一等「ニ」ストル「サ」ゲク「バ」シ「ヤ」ハ  
免職トナリ「メ」ク「メ」ト「ウ」シ「チ」ハ「シ」ヤ「ハ」太「政」大「臣」  
ニ任セラレタリ  
同三十一日  
維納二十九日、澳國「デ」レ「ゲ」ト「シ」ヨ「ン」ノ會議ニ於  
テ「シ」ツ「ル」ム「氏」ハ「ヤ」ン「ス」テ「フ」ア「ノ」條約ハ會議



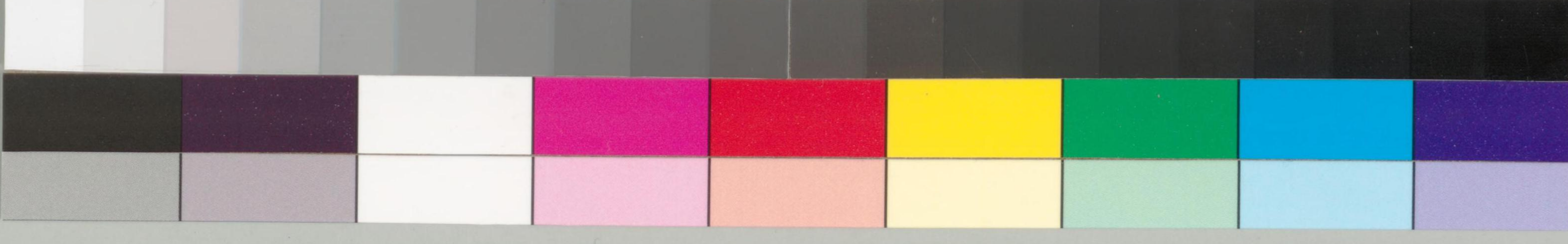


持出シニ成ルベキヤ又右條約中何々ノケ條  
澳國ノ利益ニ觸ルヤノ事ヲ問ヘリ、コイント  
アンドンヲシト之ニ答ク曰ク「サンステアアノ  
條約ハ會議ニ持出ストナルベシ第二ノ事件  
ニ付澳國ハ再々難事ノ起テザルベキ哉カテ  
ル沼平ノ法ヲ望メリ「ホルガリヤ境ヲ擴ムル  
並ニ二ケ年間「ホルガリヤニ魯兵ヲ駐ムル  
ニ魯兵「ロ「マニヤ領通過ノ為メ同國ノ一部ヲ  
占ムルノケ條ハ此後難事ヲ醸スノ基トナルベ  
シ又「ヤル「フ「ヒ「ヤ「モン「テ子「グ「ロ「ノ境ヲ擴ムル  
ハ「澳政府ノ敢テ畏ル、所ニ「アラスト「虽「我「近  
隣ノ小國等其境界ヲ廣ムルハ「我望ム所ニ「ア  
ズ「石等ノケ條ハ「欧州各國ヨリ其見込「既

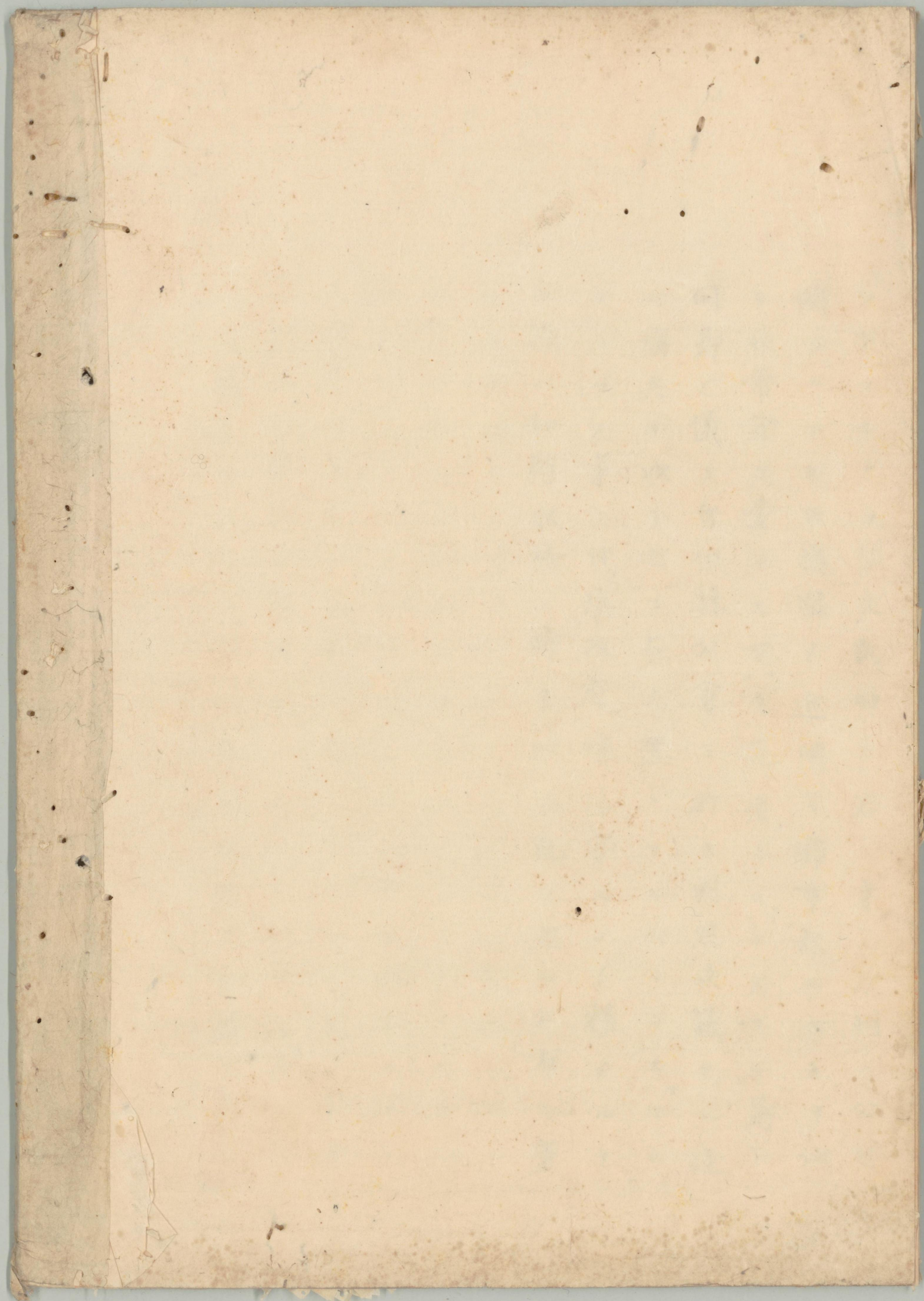
魯政府ハ言入レタル「ニテ「澳國モ會議ニ於テ  
ハ猶此事ヲ固ク持論スベシ  
土京二十九日「マクムド「ダ「マツト「バシヤノ陸軍  
卿ニ任セラレシハ「府下人民ノ甚タ快トセザル  
所ナリ同氏、此任ニ撰マレタルハ「テ「マル「カン  
宮ノ騷動ヨリ起リシ「ニテ「土帝ハ諸卿會議ノ  
議長ニ「モ「告「ケ「ホ「ノ親「カ「テ「此「事「ヲ「決「マ「シ「ナ「リ「其  
外猶諸卿ノ轉任等アルモ測ルベカラス  
六月一日  
龍動三十一日「モ「ニ「ン「グ「ア「ド「ウ「エ「ル「セル「新聞  
ニ「云「ク「會「議「ヲ「開「ク「ノ「談「判「ハ「甚「タ「擄「取「リ「會「議「開  
キ「ノ「ト「ハ「今「日「英「政「府「ヨ「リ「下「院「ニ「布「告「ス「ベ「シ「ト  
維「約「三「十「一「日「澳「國「ノ「臨「時「特「撰「會「議「ニ「於「テ「コ「



ントアンドラシ<sup>1</sup>氏曰ク若シ幸ニ欧州ノ公會  
開ク<sup>1</sup>アル氏填國ノ近隣ニ難事起ルベキヲ以  
テ非常金ヲ費ヤス<sup>1</sup>不可免者トス<sup>1</sup>アダカレ島  
同島ノ儀ニ付伯林公會ニ於テ判然決議アル迄  
ハ填兵ヲ以テ之ヲ占メ置カザルベカラズ<sup>1</sup>ボル  
ガリヤノ事ニ付填政府喙ヲ容ル<sup>1</sup>ノ權アルノ  
一條ハ和約取結ノ時ヲ以テ既ニ之ヲ公布シ置  
ケリト







国立国会図書館 伊藤博文関係文書(その1)書類の部 413-1